

# イスチユアリ

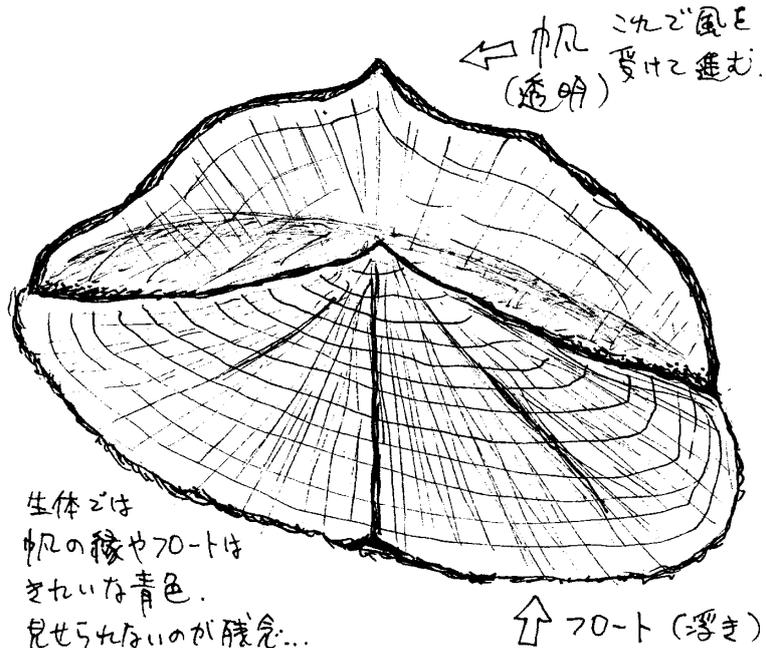
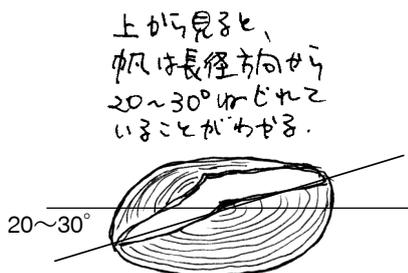
## Estuary 041

～いしかり砂丘の風資料館だより～

“青いクラゲ三兄弟”のひとつ。  
“三兄弟”とは、カツオノカンムリとカツオノエボシ、ギンクラゲの3種。クラゲと言っても、傘をパクパクさせて水中をゆったりと泳いでいる、普通にイメージするクラゲたちとはまったく似ていません。青色の体を持ち、フロートで海面に浮かんで漂っている、変わったクラゲたちです。カツオノカンムリは楕円形フロート（浮き）の上に三角形の帆を持ち、まるでヨットのように風を受けて海面を帆走します。

### 展示資料のひみつ

リターンズ



#### ■カツオノカンムリ

*Velella velella*

刺胞動物門ヒドロ虫綱花クラゲ目  
カツオノカンムリ科

採集地 北海道石狩市石狩浜

採集日 2010年9月23日

全長 3～4cm（フロートの長径）

これら“三兄弟”は、温暖な海上で生活しています。風まかせに生きているため、風向きが悪いと海岸に漂着してしまいます。西日本では台風の後や日本海側で季節風が強い時期など、大量に漂着することがあります。本来は北海道では見られないのですが、2010年9月、石狩浜に10個体近く漂着しているのを発見しました。石狩では初めての漂着、おそらく最北の漂着記録と思われます。この夏から秋にかけて日本周辺の海水温が異常に高かったことと関係がありそうです。 ■

（志賀健司 しがけんじ）

クジラの化石は、“わっ、木みたい”。顕微鏡で見た星砂は、“ほら、あの魚の形のスナック菓子みたいだね”。これらは、お客様が展示物をご覧になったときに、よく上がる声です。展示物により身近に感じられた瞬間？と思いながら聞いています。

2階に展示している紅葉山49号遺跡から出土したクマの顔のような彫りが付いた舟形容器は、まさしく舟のような形を



星砂。粒の大きさは1～2mm。



紅葉山49号遺跡から出土した舟形容器。

# ○○みたいなもの

していることから付けられた名称。古い時代の遺跡からの出土品には、○○のように見えるから・似ているからと名称が付いているものも少なくありません。そういうものを見ていると、現代に暮らす私達の想像力と推理力が古代の人たちに試されているのかな、という思いがわいてきます。

ところで、お客様が入館するときまで、省エネのため照明を一部落としている資料館の真ん中でポツンと座っている私を見て、一瞬驚かれた表情をするお客様に、私がどのように見えたのか、一度お尋ねしてみたいようなみたくないような…

(倉 雅子 くらまさこ)

## 缶詰の日

みなさんのご家庭に缶詰はありますか？ おそらく、ほとんどのご家庭に何かしらの缶詰製品があると思います。実はこの缶詰と石狩には深い関係があります。明治9（1876）年に開拓使は北海道の産業振興を目的として現在の当資料館近くに「石狩缶詰所」を設置し、明治10年10月10日に缶詰の製造をスタートさせました。この石狩缶詰所が日本初の西洋式缶詰工場と考えられていることから、日本缶詰協会は10月10日を『缶詰の日』と定めているのです。



石狩罐詰所



資料館の「手づくり缶詰マシン」

当資料館では当時とほぼ同じ方法で缶詰作りを体験することができます。缶詰に入れるモノは皆さんの自由です（ただし生もの、水分を多く含むものは不可）。資料館でもいくつか記念品を用意していますが、ちょっとおもしろい目的で利用される方もいます。例えば、お金を入れて孫へのお年玉とする方や、なかに思い出の品を入れて結婚式の引き出物とするカップルもいました。このように、缶詰の利用方法はみなさん次第です。資料館へお越しの際は、ぜひ一度体験してみてください。

(千田寛之 ちだひろゆき)

【手づくり缶詰体験】小：100円、大：150円

## サハリンクルーズ

9月上旬、長年、自分の都合ばかり優先させてきたカミさんへのせめてもの罪滅ぼしにと、短い船旅をしてきました。旅は小樽港から「にっぽん丸」でコルサコフへ。そしてコルサコフからバスでユジノサハリンスクへという二泊三日という旅程でした。慌しい日程でしたが、好天にも恵まれ、カミさんもけっこう楽しめたようで喜んでくれました。

午後3時に小樽を出航して一路サハリンへ。4時30分近く甲板にいと、浜益の付近の切り立った断崖が見えてきました。目を凝らすと青くかすんでいるものの浜益黄金山も見えました。夕暮れのためシルエットでしたが、その存在はひときわ目立つ存在です。こうして洋上



↓黄金山  
黄金山の遠望。距離32km。  
(距離については商船三井(株)のご教示による)

から黄金山を見ると遠望が利き、船人にとって目当てにするのに格好の山だということが実感されます。かつてアイヌ民族は日本海からサハリンにかけて活発に交易を行っており、その際彼らはこの聖なる山を航海目標としたのでしょ

う。翌早朝、コルサコフへ入港。韓国製中古バスでユジノサハリンスク市内観光に向かいました。ユジノサハリンスク駅に立ち寄ったので、キオスク(売店)をのぞいてみました。すると、ホタテ貝に小さな巻貝を接着したマグネットらしきものがガラスの棚並んでいました。「サハリン」と端に書いてあるだけの粗末なお土産品でした。しかし、良くみると貝のほかに直径5mmほどの半透明で赤い小さな石が数粒付いているではありませんか!



日頃せっせと石狩浜で琥珀採取にいそしんでいるビーチコーマーは、すぐそれが琥珀だと分かりました。一個200ルーブル(600円)と結構なお値段でした。レジのお嬢さんに赤い石を指差して「これ琥珀だね?」と聞くと「私知らないわ」といわれました。しかし、購入後、詳しく観察すると間違いなく琥珀でした。おそらく北のドリンスク市(旧落合)のスタロドヴスコエ(旧栄浜)付近の海岸で採取された海琥珀を使用したものでしょう。現地のガイドは「琥珀かもしれませんが」と慎重でした。彼は他でも買えるといったが、その後お目にかかれませんでした。 ■

(石橋孝夫 いしばしたかお)

野外講座

### 石狩ビーチコーマーズ/秋

10月  
開催

対馬暖流と北西の風によって、秋の石狩浜にはたくさんの漂着物がやってきます。漂着物を観察・採集して、その正体や由来をみんなで考えましょう。

この夏から秋、日本海の水温は平年値よりもかなり高く、温暖な水塊が北上しやすい状況です。もしかしたらヤシの実やアオイガイ、ルリガイなど、南の海からやってきた漂着物が見られるかも!

- 日時 10月31日(日) 09:00~13:00
- 場所 いしかり砂丘の風資料館~石狩浜
- 対象 小学4年生~大人  
(小学生は保護者同伴で)
- 定員 20人(先着順)
- 持ち物 長靴、帽子、ビニール袋、防寒着、手袋等
- 費用 無料
- 申込 10/2(土)~10/29(金)の間に電話で資料館(0133-62-3711)へ

# 10月～12月の講座・展示

連続講座

## 石狩大学博物学部

11月  
開催

石狩って、どんなところ？

石狩の自然と歴史を調査している2人の学芸員が、最近の研究成果やトピックを写真や図を使ってわかりやすく解説します。

1回だけの受講もOK。2単位（2回）とも修得（受講）した方には、修了証を発行！

石狩市民カレッジ連携講座

道民カレッジ連携講座（ほっかいどう学）

第1回 11/6（土）

### 石狩歴史学／悪徳官吏富田信定の行状

明治6年12月、開拓使官吏、富田信定は、石狩出張所在勤中の悪行により処罰されました。富田の取調べ書類から、富田の所業と当時の石狩の様子について見ていきます。

第2回 11/13（土）

### 石狩地球科学／石狩の海、石狩の沼

初めて確認された石狩の蜃気楼、キタハウネンエビの生息する不思議な沼など、海や沼で続けてきたいろいろな観測の結果、発見したことを紹介します。

■時間 13:00～15:00

■場所 石狩市民図書館 視聴覚ホール  
（石狩市花川北7条1丁目）

■対象 高校生～大人

■定員 各回40人（先着順）

■費用 無料

■申込 10/2（土）から2回分とも受付開始。

電話で資料館（0133-62-3711）へ

### ■石狩市広報に連載「いしかり博物誌」

☞第109回：石狩おぼけ、とうとう現る（10年9月号）

石狩湾で小樽から見られる蜃気楼。石狩から初確認！

テーマ展

## いしかりのかたち —地図から見た石狩の歴史—

開催  
中！

石狩は、地図の上にどのように描かれてきたのか。石狩が描かれたさまざまな地図から、石狩の歴史をひもときます。

■期間 9月15日（水）～10月29日（金）

■場所 いしかり砂丘の風資料館

※資料館の入館料（大人300円、中学生以下無料）が必要です。

テーマ展

## 資料館のお宝2011

12月  
開始

押入れから出てきた古い写真や、物置に眠っていた昔の道具などなど…。市民のみなさんから寄贈していただいた資料は、資料館のお宝！この1年間にいただいた資料、あるいは採集した標本などを公開します。

■期間 12月下旬～2011年3月

■場所 いしかり砂丘の風資料館

※資料館の入館料（大人300円、中学生以下無料）が必要です。

### 編集後記

調査で林の中に入ることが多かった今年。猛暑に加えて雨も多かったこの夏ですが、林の中で悩まされたのが、蚊。水たまりがいつまでも残るために蚊の大群が発生、虫除けも効果なし。物理的に防御しようと厚着をしますが、服の上からも刺されるし、そもそも暑くて本人がバテてしまう…。涼しくなって、心底ほっとしています。（け）

## エスチユアリ No.41

いしかり砂丘の風資料館

開館時間 午前9時30分～午後5時00分

休館日 毎週火曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始

入館料 300円（中学生以下は無料）、  
団体料金240円（15名以上）

交通 中央バス札幌ターミナルより石狩行き乗車、  
「石狩温泉」下車、徒歩1分  
（石狩温泉「ホテル番屋の湯」向かい）

2010年10月15日 発行

いしかり砂丘の風資料館

〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

TEL/FAX: 0133-62-3711

bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum/